

## 農業機械を通して農業と地域社会への貢献を

私は高校卒業後に縁あって農業機械の販売店に就職、その後、三菱重工名古屋製作所で農業用トラクタの研究や試作に携わり、専門技術を習得しました。昭和54年に独立、(株)マイサン農機を設立し、現在、38年目となります。

山梨の農業は、明治以降盛んであった養蚕が戦後徐々に果樹などへの転作が進み、畑地利用の形が変わり始めると同時に、急速に人力から農業機械を利用した農業への転換が進みました。時代と共に農業の形態が大きく変化していく中で、農業機械はなくてはならないものとなりました。

現在の稲作用農業機械(田植機、コンバイン等)、果樹用機械(スピードスプレーヤ、トラクタ等)などは日々性能が進歩し、新機種が販売されています。こうした変化の中で、農家が必要としているものは何か、望んでいることは何かを常に考え、お客様にとってより良い環境を作ることが

心がけて販売や修理に取り組んでいます。

近年問題となっているのは、就農者の高齢化や新規就農者の不足、耕作放棄地の拡大です。ぶどう、桃、すももの産地としての山梨県の地位が危うくなっています。就農者が安心して農業に取り組んでもらえるように安定した農産物の増産と収入が確保でき、現在の耕作地が維持していけるよう、国、県、市が連携して今で以上に支援していくことが必要だと思います。

農業は「食の維持と安全」だけでなく、「環境の保全」といった地域に深くかかわる重要な役割を持っています。その農業に少しでも貢献できるよう、私たちは農業機械を通して食の生産に係わる仕事のお手伝いができることを誇りに、組合員全員がその責任を自覚し地域に密着したサービス活動で地域社会に必要とされる農業機械の専門店として頑張り続けます。

